



10年目の梅と桜

熱海市長 齊藤 栄

先月、「糸川桜まつり」のオープニング・セレモニーが過去最高の人出で開催されました。日本中が寒波に見舞われ、連日大雪のニュースが伝えられる中、糸川のあたま桜は満開を迎えていたからです。メジロが楽しそうに飛び回り、芸妓衆の舞もとても華やかでした。ちょうど梅園の早咲きの梅も見頃を迎えており、「日本一早咲きの梅と桜を同時に楽しむ熱海」が名実ともに実現した瞬間だと感じました。

しかし、このことは一朝一夕で成しえたものではありません。梅園の梅も、糸川のあたま桜も熱海に元々あったものですが、今の状況になるまでに、ちょうど丸10年かかっています。梅園の大規模改修は平成19年に、糸川の植栽をあたま桜に統一する工事は平成21年に始まりました。どちらの事業も熱海にゆかりのある篤志家から多大なご寄付をいただき、それぞれ3年、平成23年までの足かけ5年の整備事業でした。そして、整備された梅と桜などのプロモーション（宣伝）に本格的に取り組み始めたのが、「ADさんいらっしゃい！」をスタートさせた平成24年です。その後、今日までの約5年間で、熱海が多くメディアに取り上げられるようになりました。

1年で作ったブームはすぐに廃れがちですが、10年かけて積み上げてきたものは急にはなくなりません。熱海には他にはない宝がたくさんあります。熱海の宝に磨きをかけ、それをしっかりプロモーションすることが、観光振興にとってとても大切なことであると考えています。



2年連続の宿泊300万人超え

熱海市長 齊藤 栄

熱海市の昨年1年間の宿泊客数が2年連続で300万人の大台を超えました。大手ホテルの閉館や美術館の改修などがあつたにも関わらず、何とか目標を達成しました。この好況を維持・拡大するために必要なことがいくつかあります。

一つ目はさらにPR（プロモーション）に力を入れていくことです。先日、横浜市内のショッピングセンターで3日間にわたって「熱海フェア」を開催しました。市役所、産業界、芸妓衆などオール熱海で取り組みました。「ADさんいらっしゃい！」に代表されるテレビでのプロモーションも大切ですが、現地に行くくと直接その反応を知ることができます。私もチラシを配りながら、「来週、熱海に行きますよ」「熱海のこがし祭りは毎年行っているわ」などの声を直接聞くことができ、次のプロモーションのやり方のヒントを得ることができます。

もう一つは来遊者の満足度を上げることです。先日、市内のお寿司屋さんから「市の補助を使ってトイレを洋式に変えたのよ。高齢者に喜ばれ、本当に助かりました」とお礼を言われました。トイレの洋式化は以前から問題意識を持っていて、その助成事業を昨年の秋からスタートしました。外国人観光客への対応という面もあり、今では人気の補助メニューとなっています。大変地道なことですが、こういったことが熱海を訪れた時の印象を決めています。

今年も、改修を終えリニューアルオープンするホテルもあります。宿泊客数をさらに増やす努力を続けていきます。



桜の名所散策路が完成！

熱海市長 齊藤 栄

3月16日、熱海高校の通学路となる「桜の名所散策路」がついに開通しました。用地取得が難航し、完成が危ぶまれた時期もありましたが、15年越しの工事がようやく完成しました。これまでご協力いただいた多くの関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。

当日は晴天のもと開通式典が行われ、多くの来賓にお越しいただきました。そして熱海高校の生徒約170人とともに散策路を歩きましたが、高校生たちのうれしそうな顔が印象的でした。ある女子学生は「伊豆多賀駅から歩く時間が半分になりました」と喜んでいました。生徒会長からは「四季の道」という愛称の発表がありました。「四季を通じて高校生活を彩ってくれる」という思いから名付けたそうです。

私は、熱海高校は熱海市の将来を担う人材を育成・輩出する重要な高等教育機関だと考えています。熱海高校に入学し、希望すれば必ず地元で就職ができるようになれば、若年層の地元定着につながり、ひいては熱海市の人口減少に歯止めがかけられると考えています。

散策路からの眺めは「絶景」そのものです。高台から多賀湾、そして初島を望むことができます。また、あたま桜を中心に植栽を行っており、桜の季節には多くの観光客が訪れることでしょう。この散策路が熱海高校の魅力をさらに高めるとともに、南熱海そして熱海市の発展に寄与していくことを期待しています。



熱海市制施行80周年

熱海市長 齊藤 栄

今から80年前の昭和12年4月10日、熱海町と多賀村が合併し、熱海市が誕生しました。この市制80周年に際して、私がかかわったことが幾つかあります。

一つは「歴史年表」です。過去80年をさらにさかのぼり、日本が開国してから現在まで約150年間の熱海発展の歴史は本当にドラマチックで、日本の発展の歴史そのものです。その歴史の流れを俯瞰するには年表が最適で、今回新たに歴史年表を作成しました。現在、その年表は市役所1階のロビーに展示しています。年表には熱海御用邸、軽便鉄道、初代お宮の松など熱海の歴史を彩る写真も載せています。広報あたみの4月号にも掲載しましたので、ぜひご覧いただきたいと思います。

もう一つは「若い世代の参加」です。

「新しい熱海は、自分たちの力で創っていくんだ」という意識を、若い世代の皆さんにぜひ持ってもらいたいと考えています。80周年記念式典では「熱海温泉誌」の刊行を記念したフォーラムが行われましたが、市内の中学生・高校生約50人に会場に来てもらいました。私は「熱海発展の歴史をしっかりと勉強し、熱海のまちづくりに積極的に参加してほしい」と彼らに訴えました。10年、20年後には、彼らが熱海の発展を担う主役になるからです。

4月10日の式典は、市制80周年のスタートです。今年は1年を通して、市民の皆様とともに、熱海発展の歴史を振り返り、また、熱海の将来を展望していきたいと思います。



市の不良債務がようやくゼロに

熱海市長 齊藤 栄

今年度の熱海市の財政状況について、特筆すべき点があります。それは不良債務がゼロになる見込みだという点です。

不良債務とは会計上の資金不足のことです。銀行などから一時的に借り入れなければならぬ赤字額です。計画的に返済していく市債（ローン）とは異なります。平成18年当時、水道・下水道・温泉の3事業からなる公営企業会計に約41億円の不良債務がありました。この額は、公営企業会計予算規模67億円の約6割に相当するほど莫大なもので、同年12月の「財政危機宣言」の大きな要因となりました。

この不良債務が、約10年を経てようやく解消する見込みとなったのは、「痛みを伴う改革に市民の皆様がご理解とご協力をして下さったから」に他なりません。特に平成19年度からの5年間は「行財政改革プラン」に基づいて、市庁舎や熱海駅前広場など大型公共事業の凍結、市役所職員の8%の給与削減、水道・温泉料金の約四半世紀ぶりの値上げ、高齢祝い金等福祉事業の廃止などを断行しました。市民サービスのカットや市民の皆様への負担を強いることは、厳しい選択であり、やむを得ない決断でした。

一方で、削減だけでは熱海市の未来は作れません。厳しい財政状況の中でも、少しずつ基金の積み立てもしてきました。過去10年間で約36億円を積み立て、今年度はそのうち約10億円を、認定こども園の整備、南熱海支所の改築、火葬場のリニューアルなどに使います。健全な財政は市政運営上の重要な基盤です。今後とも財政規律を緩めることなく、健全経営を堅持してまいります。



花ひろばが新しくなりました！

熱海市長 齊藤 栄

市役所前交差点の「花ひろば」の大改修工事が完成しました。花壇の植栽は、花ひろばと最も関係の深い市民グループにやっていただきました。平成3年の花ひろばオープン時からずっと手入れをして、愛着を持って守ってくださっている方々です。

花ひろばのリニューアルにあたり、私が目指したことが二つあります。一つは、花ひろばを熱海の花のショーケースにすることです。これまでここにはさまざまな種類の花木が混在しており、雑然としていました。今回、花木は熱海を象徴する、紅白の梅、あたま桜、ブーゲンビリアなどにしぼり、これらが主役となるように、思い切ってデザインし直しました。花ひろばで梅やあたま桜が開花しているのを見た方が、梅園や糸川に足を運んでもらうことを狙っています。

もう一つは、花ひろばを含む市役所の敷地が、かつて熱海御用邸のあった大変由緒ある土地だということを、市民そして観光客に広く知ってもらうことです。江戸時代には3代將軍徳川家光公がつくった熱海御殿と呼ばれた湯殿があり、その後、大正天皇のための御用邸が置かれ、昭和12年にスタートした市制の庁舎が建設された特別な場所です。この由来を記した説明板を新たに設置しました。図書館の専門員と説明文を何度も練り、熱海御用邸の写真も付け、満足のいくものになりました。

今回の改修工事で、市役所の入口付近がすっきりと明るいイメージになりました。近くにお寄りの際はぜひ覗いてみてください。



雑がみ回収プロジェクト

熱海市長 齊藤 栄

「雑がみ」を知っていますか？ レシートやメモ紙、包み紙や封筒など、資源化できる紙のことです。市では2年ほど前から、この雑がみの回収に力を入れています。現在、市内3箇所専用の回収ボックスを置き、これまでに6トン以上を回収し、再生されたトイレットペーパー11300個を幼・保育園、小学校などに寄贈してきました。

新聞、雑誌、段ボールなどについてはすでに紙資源としての回収が根付いていますが、それ以外の多くの紙資源は可燃ごみとして焼却処分されており、本当にもったいないことです。私も家庭で雑がみの分類を始めてみて、その多さに驚きました。家にいくつかあるゴミ箱の中身は、半分ほどが雑がみでした。

先日、第一小学校の体育館で雑がみ回収によって再生されたトイレットペーパー1100個の寄贈式がありました。1、6年生の全校生徒の前で、私からいくつか質問を投げ掛けながら、このプロジェクトにより、雑がみを資源化できること、燃やすごみを減らし地球温暖化の防止につながることを説明しました。そして私から「お家に帰ったら、ご家族に雑がみ回収の大切さを伝えてください」と話をしました。

雑がみ回収ボックスは、市役所第一庁舎1階、福祉センター2階、南熱海マリンホールに設置しています。牛乳などの紙パックも合わせて回収しています。市民の皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。



ジオ熱海

熱海市長 齊藤 栄

今年の夏は遠出せずに、近場でゆっくり過ごしました。今回、改めて感動したことがあります。熱海、そして伊豆半島の地形の美しさです。

輝く海に面し、三方を急斜面で囲まれた熱海の市街地はまるでジオラマのように、高台から眺める景色は格別でした。日々の喧騒が嘘のように風の音や清々しい空気にふれ、この雄大な自然の中で、日々一喜一憂している自分がとても小さく感じられて、あらためて英気を養うことができました。

また、熱海の特徴的なこの急斜面は、多賀火山の山体の東側半分が侵食されてできた地形だそうです。通常、ジオサイトと言えば伊東市の大室山や城ヶ崎海岸などがその典型ですが、熱海市では市民が生活し、観光客が滞在するこの温泉街自身がジオサイトなのです。

車で少し移動したくろたけ玄岳からの景観も、絶景の一言です。その日は残念ながら雄大な富士山は雲に隠れていましたが、太平洋に向かって右手に駿河湾、左手に相模湾を望み、今、自分が伊豆半島の付け根に立っていることを実感できます。目の前の風景がまさに日本地図の形をしているのです。これほどドラマチックな景色が世界にいくつもあるでしょうか！

伊豆半島ジオパークはユネスコに世界認定を申請中です。熱海を含む伊豆半島の地形の美しさは世界の宝です。この大地の恵みを熱海の発展にさらに生かしてまいります。



私と海

熱海市長 齊藤 栄

先日、「市長にとって海とは何ですか」とインタビューを受けました。その答えを考えながら、私は熱海に住んでから、海に対する印象が大きく変わったことに気づきました。

私の生まれ育った東京都品川区にも海はあります。しかし、東京湾に面する海岸沿いは工場や倉庫群で埋め尽くされ、海から昇る太陽を見たことは一度もありません。私が熱海に住んで最初に感動したことは、熱海港から昇る朝日の美しさでした。驚くことに夜明け直前、海上の空が七色に輝きます。特に空気の澄んだ冬の季節は圧巻の景色です。その後、光り輝く太陽がぐんぐん昇っていきます。私はどんなに疲れていても、その大自然の力強さに、「今日も一日頑張るぞ!」と元気をもらっています。

一方、熱海港に浮かぶ満月も格別な美しさです。皆さん、「月の道」を見たことがありますか? 月が海から顔を出し、まだあまり高くない時に、海上にキラキラと輝く光の道が現れます。英語では「ムーン・リバー」(月の川)とも呼ぶのですが、その幻想的な風景には心が癒されます。昨年から、月の道が現れる時間に合わせて、サンビーチで薪能が行われていますが、この幽玄な自然の舞台は熱海ならではのものです。

熱海は多くの自然の恵みを受けた、本当に祝福された土地です。インタビューを契機に、熱海の自然の美しさ、豊かさに改めて思いを巡らしました。



地域づくりの敬老会

熱海市長 齊藤 栄

市ではこれまで観光地という地の利を生かして、市内ホテルを使用させていただき敬老大会を開催してきました。しかし、従来の会場が使えなくなったため、今年から各町内会などが行う敬老会に補助を出す形に変更しました。私も幾つかの敬老会に伺いましたが、ホテルの大宴会場とは趣が異なり、和気あいあいとしたアットホームな雰囲気、参加人数も増えています。

私は挨拶の中で「高齢者」に替えて、敬意を込めて「シニア」という言葉を使っています。シニアは「上位の・上級の」という意味であり、経験を積んだ人生の先達をたたえるのにふさわしい言葉だからです。長寿のお祝いとともに、「熱海のまちづくりに、ぜひお力をお貸しください」というお願いもしています。なぜなら、シニアの皆様にはかできないことがたくさんあるからです。

先日、『網代の祭り』という冊子が発刊されました。戦前から戦後にかけての網代の歴史について、シニアの方々の体験や思い出話を記録したもので、多くの写真と生の声で生き生きとした読み物に仕上がっています。この取り組みは、網代の貴重な歴史を後世に残す「まちづくり」そのものであり、当時を知るシニアの皆さんにしかできないことです。

敬老会は11月まで各地で開催されます。この機会に、多くの皆様に参加していただくとともに、熱海のまちづくりにも力を貸していただければと思います。



別府温泉の恩返し

熱海市長 齊藤 栄

先日、大分県別府市へ出張しました。「別府ONSEN（おんせん）アカデミア」という会議に参加するためです。熱海市の姉妹都市である別府市と言えば、昨年4月の熊本・大分地震で大きな風評被害を受け、その年の11月には熱海市から61人の市民団が復興支援に伺いました。その別府市が奇跡のV字復活を遂げました。地震直後のゴールデンウィークに前年比約30%の宿泊減と大きく落ち込みましたが、映像や新聞広告で未曾有の危機を全国に訴えたところ、応援の声や支援の動きがあり、年末にはほぼ例年並みにまで回復しています。

このことを受け、別府市では今、「別府温泉の恩返し」事業を行っています。これは被災支援の返礼事業として、日本全国へ別府温泉のお湯を無料で届けるものです。私はこの発想自体に大変感銘を受けました。そしてこのアイデアが別府市役所職員の発案であることやまち全体の実行力が、全国から愛される温泉地別府市たるゆえんのひとつではないかと思いました。

この事業を行うため、別府市はお湯を運ぶ専用のトラックを用意しています。お湯の配送先は、地震のあと別府に宿泊した方などを中心に応募された方から選定されますが、来年2月には熱海市にもこのトラックがやってくる予定です。詳しいことはこれからですが、市内のどこかに別府のお湯が張られ、帰る際には空になったタンクに熱海の温泉を入れて別府まで運ばれるそうです。熱海市と別府市の温泉を通じた市民交流、今から楽しみです。